

7コース ハンズオンセミナー

マイクロストレッチ®で対応する歯科的不定愁訴(演習付き)

— 不調・違和感・原因不明の疼痛に対処する —

たとえば

・抜歯の後から頭痛やめまいが始まって、なかなか治まらない
 ・肩コリ解消のために受けた咬合調整後、かえってひどくなった
 ・しっくり噛めなくなった・アゴや頭が引っ張られる感じがするなど、歯科治療後に発症したり、歯科治療は受けていないのに顎口腔領域に原因不明の症状が発症するなど、対応に苦慮する患者さんが歯科医院に来院することを経験されたことはありませんか?その患者さんが、以前から先生の診療所に通院している患者さんだとしたら、特に何とかしてあげたいと思われるのは当然です。でも、そういった時に、診断はあいまいなまま、ご自分ができる歯科的治療で対応しようと処置に踏み切る経験をされたことはないでしょうか。本来、医療行為は診断のもとに治療を行う原則があります。しかしながら、診断が独善的であったり、方針があいまいなまま、リスクや安全性、他の治療法の説明を十分されないまま、先生の得意とする処置に取り組み、かえって複雑化させてしまった症例を、私たちは大学病院で多数経験しています。こういった症例に取り組むには、医科領域における除外診断についての知識、不定愁訴を作り出す主たる病態生理についての知識、歯科的治療による身体症状との関連性、歯科的治療とは関係の薄い顎口腔領域の症状とその原因、歯科医院で対応が可能な心理・社会的問題に対するアプローチなど、多岐にわたる知識が必要になります。さらに、こういった症例の多くの経験則から、治療にあたっては、歯科医院で展開できる筋膜マイクロストレッチ療法など「身体症状そのものに対する処置や指導」を最優先して行い、必要とされる歯科的治療は、できることなら当面は行わずに、身体症状が十分改善、あるいは消失してから最終処置として必要な歯科的治療を行う位置づけを原則として守らないと、失敗に終わる可能性が格段に上がってしまうことがわかってきました。歯科的治療は後回しにする勇気が必要なのです。講習では、歯科治療の後に発症したり、医科領域では原因不明とされ、顎口腔領域の愁訴であることから、歯科的問題として転嫁された、身体症状を有するさまざま患者さんに対する正しい評価・診断、そして治療法として歯科医師が取り組むことのできる非侵襲的で安全性の高いマイクロストレッチ®の基本理論と実際を演習とともに供覧します。

日時

12月10日(日)

10:00~16:00

定員

20名

会場

大阪歯科大学天満橋学舎

対象

歯科医師

研修費

歯科医師(会員)28,000円
 歯科医師(会費未納者、他大学)38,000円
 ※(実習材料費8,000円を含む)

講師

原 節宏



日本歯科大学附属病院総合診療科 准教授
 顎関節症診療センター所長
 [略歴]
 日本歯科大学生命歯学部卒
 日本歯科大学大学院修了(臨床系補綴学専攻)
 デンマーク王立オーフス大学歯学部
 臨床口腔生理学教室 客員講師
 日本歯科大学附属病院総合診療科 准教授
 附属病院顎関節症診療センターセンター長

[学会活動]

日本補綴歯科学会(専門医・指導医)・日本顎関節学会(次世代 Seeds 委員・専門医講習講師)
 日本口腔顔面痛学会(評議員・専門医・指導医・専門医講習講師)・日本歯科人間ドック学会(理事・専門医講習講師)
 日本アンチエイジング歯科学会(理事・専門医講習講師)・日本口腔リハビリテーション学会(評議員)
 日本歯科心身医学会・日本老年歯科学会・日本認知症予防学会・理学療法科学学会・日本統合医療学会
 International Fascia Research Congress(国際膜組織研究会議) ほか

[その他]

・原 節宏(共訳):ジェフリー・P オケソン(著),ベルの口腔顔面痛—痛みの診断と対処法—,クインテッセンス出版,1998.

◎天満橋学舎の会場地図

